

大きな課題でもあります。つまり自然環境とのバランスや都市の景観、市民の多様なライフスタイル等に対応しつつ都市そのものを管理運営していく上で、新しい時代の都市課題としての国際化、情報化、高齢化社会への確実な到来に向けて対応していかなければなりません。しかしながら、本市には未だ11%の軍用地を抱え、戦災によって発生をした位置境界不明地域に密集する住居、建築不可能な不良住宅地、そして、そこには高齢者人口も急増をしているのであります。都市環境の変化と核家族化の進行によって、現在一世帯当たり人数は平均3.1人、都市地区におきましてはそれを切る割合にまでなり、いわゆるドーナツ化現象も進行しているのであります。これは快適な居住地を求めて移動する典型的な動きであり、その対応は急務な作業となっております。又、太平洋における軍事的な意味合いからの“キーストーン”という本県の呼称は、かつて東南アジア、東アジアの交易の拠点としての“かなめ石”の役割とは皮肉にも全く相反するものとなりました。しかし、自然環境、地理的条件、或いは歴史文化の面におきまして、21世紀の都市課題による国際化、情報化、そして高齢化への対応への展望は大いに期待できるものと考えております。島嶼都市那覇における人間居住環境は、長い歴史、文化を支えて、また様々な国土の中から個性としてのその土地らしさの居住環境を見い出していく努力を怠らないところでございます。

今回のアジア太平洋都市サミットにおきまして、共通の課題とその解決への模索のご意見の交換、そして交流が出来たことは大変意義あるものと思っております。この機会を設けていただきました桑原福岡市長さんをはじめ、ご参加くださいました各都市の皆さんに心から感謝を申し上げまして、私の報告を終わりたいと思っております。(拍手)

**桑原座長** 親泊市長さん、どうもありがとうございました。那覇市のこれまでの都市の歩みや、現在の都市づくりの取り組みについて発表いただきました。歴史、文化に培われたその土地らしさの居住環境を見出していく努力を怠ってはならないというご意見については、誠に賛同をいたしたいと存じます。

## 大 分 市

木 下 敬之助

**桑原座長** 次に、大分市の木下敬之助市長さんに事例発表をお願いいたします。

**木下敬之助市長** 大分市長の木下でございます。まず、本アジア太平洋都市サミット開催の労をとっていただきました桑原敬一福岡市長に心より敬意を表するものでございます。遠くはニュージーランドのオークランド市をはじめとしたアジア太平洋の主要都市が、ここ九州の中核都市であります福岡市に集まり、「アジア太平洋時代における都市の発展と人間居住環境との調和」というテーマのもと、活発な論議を深められることは、21世紀の高度成長地域と目されておりますアジア太平洋地域において極めて意義あることであり、その一員として大分市もまた参画できる榮譽に浴しましたことに深く感謝を申し上げます。

さっそく本論に入りますが、初めに、アジア太平洋時代の認識について少し触れたいと思っております。冷戦の終焉によってもたらされましたかつてない大きな変革のうねりの中、世界はいまだ未来図を描けないままです。民族や宗教に根ざした紛争が混迷化し、歴史的過渡期の混乱はまだまだ続いていくかもしれません。しかし、パレスチナをはじめ長い戦いを終えて和解の兆しが生まれているところもあり、世界は平和と紛争の間を揺れ動いているようにみえます。一方、世界経済はアメリカを中心

に回復基調にあり、日本においては、ようやく不況脱出の出口にさしかかった段階です。そんな日本のバブル不況や円高不況の中、アジア太平洋諸国の経済発展は目覚ましく、「世界の工場」として成長をなしているようであり、世界は大西洋地域からアジア太平洋地域へと、その中心をシフトしつつある歴史的段階にあると思われます。1970年代から80年代に、アジア各国は重層的な経済発展を遂げてまいりました。まず日本が高度成長期を迎え、そしてNIES諸国が追い、80年代になるとASEAN諸国が伸びております。これは経済発展に伴う賃金の上昇や為替レートの変化を背景に、次々と直接投資が発生し、成長を支えてきた結果と思われます。まさに「世界の成長センター」としてアジア太平洋諸国が世界をリードしており、21世紀はアジア太平洋の時代であるとの認識を深くしているものがございます。そのような意味において、今後は経済面はもちろん人的、文化的交流面でもアジア太平洋地域相互間の結びつきが更に深まるものと考えております。

次に、都市の発展についてであります。戦後の日本の発展の典型的な実例として大分市の都市の成長を見ることができます。大分市は、1964年に工業開発拠点地区を全国に建設しようという「新産業都市」に指定され、都市が急速に発展してまいりました。大分市は全国15カ所の「新産業都市指定地域」のうち、一、二を争うほどその成果を上げ、新産業都市の優等生と言われたほどでございます。当時、日本は終戦による国土の荒廃から立ち直り、戦後の高度成長の端著についた時期でした。大分市もまた小さな田舎の都市でしたが、そこへ新産業都市の指定がされ、一挙に高度成長の波に乗っていったのです。一方、戦後の日本の高度成長は世界から驚嘆されましたが、その成長の秘密は、高い貯蓄率、日本的経営システムをはじめ諸々の要因とともに、私は特に本市のような新産業都市の推進が「太平洋ベルト地帯構想」「四大工業地帯の広域化」とともに大きな役割を果たしてきた点をあげたいと思います。これは、一般的には「所得倍増計画」に象徴されるように政府の高度成長政策であり、民間設備投資の大幅な増加であり、又、産業構造の重化学工業化といったことで表されております。そして、この政策に適した、埋め立てやすく巨大タンカーも接岸可能な遠浅で急に深くなる海岸線、豊富な工業用水、豊富で良質な労働力の存在などの諸条件を大分市は備えていたということでもあります。日本は資源が乏しく、原材料を輸入し、それを加工して海外に輸出することで外貨を獲得し、国民が生活をしていく政策をとらざるを得ない状況の中、大分市においては鉄鋼業・石油化学工業をはじめとした重化学工業が隆盛を極めていったのであります。その結果、人口も着実に増え続けるとともに、急激に市街地も拡大をしまして、又、商業・金融業をはじめとした第三次産業の飛躍的な発展が見られ、具体的には、この30年間に人口はほぼ2倍、工業出荷額は34倍、市財政は29倍と大きく成長していったのであります。この都市の膨張は、一方で大気汚染や水質汚濁等の公害の発生、山林や農地の開発・宅地化による自然の減少、人口急増による交通渋滞、学校をはじめ各種公共施設の不足など様々な課題や影響を地域や環境に与えてまいりました。これらを1つ1つ地道に解決・改善に取り組んでまいったのが大分市の歴史でもあります。まさに、大分市は戦後日本の高度成長の典型的な実例であり、その成長の秘訣そのものを大分市に見ることが出来ると言えらるかと考えております。

次に、人間居住環境との調和についてであります。1992年に開催された「地球サミット」に象徴されるように、地球の温暖化、オゾン層の破壊、熱帯林の減少など地球環境に対する世界的な関心が高まっております。一方、国内の環境問題に目を向けますと、二酸化窒素による大気汚染や生活排水による水質汚濁、更には廃棄物の増加や散在性ごみなど都市型公害・生活型公害が大きな問題となっております。こうした環境問題は、いずれも人間の活動が環境に対して過度の負担をかけ、自然の環

境と生態系の微妙なバランスを乱すことによって起こるものであります。今日、地域の環境問題は地球規模の環境問題にまでつながっており、また、地球環境問題への取り組みは、地域の環境問題への積極的な取り組みを必要とすることを考えれば、市民一人ひとりが自分自身の生活のあり方そのものを見直し、「人と自然の共生」に相応したライフスタイルを確立するとともに、身の回りの環境を良くするための持続的な行動を行うことが求められています。

このような視点に立ち、本市は、産業型公害については発生源における未然防止に力を注いでおり、具体的には、酸性雨対策として低イオウ化対策を実施し、フロンガス対策としてIC工場での特定フロンの使用を廃止するなど内容をとする公害防止協定を企業と結び、温暖化防止対策としてエネルギー多消費型の工場の省エネルギー化を通して二酸化炭素排出量の削減を図るなど、行政と企業の積極的な対応により一定の成果をあげているところであります。又、「豊かさのコスト」としての廃棄物は都市問題の深刻な一面であり、廃棄物の減量化・再資源化の推進、安定したリサイクルシステムの構築が重要となっております。

そこで、本市の資源リサイクルの例として、木材の消費をあげてみたいと思います。日本の木材の消費の75%が輸入であり、その20%がアジアからであります。木材は新聞、雑誌、建材、家具等便利で快適な市民生活にはなくてはならないものですが、一方で酸素の供給、水源の涵養、災害の防止として山林の果たす役割は極めて重要であり、地域や地球の保全の観点から守り育成していかなければならないものであります。そこで、日本の木材の消費が生産国の雇用機会を提供している点も踏まえながら、山林の乱開発につながらないよう節度ある消費生活に心がけ、その使用量の減量、リサイクルの推進が求められております。本市でもこれまで18年間に及ぶ600団体のリサイクル活動や生ごみ処理容器導入などの新しい減量化施策の展開とともに、市内企業では西日本全域の牛乳パックの回収・再生を一手に処理するなど、大分市民が地球にやさしい生活に変えていくことで、ささやかながら地球環境に貢献出来ればと取り組んでいるところであります。

このように本市の施策は地球全体から見ればほんの小さなものでありますが、こんな考えに立って精一杯やることで、大分市の空気や水や植物がクリーンに保たれ、それがアジア太平洋地域のみならず地球環境全体にも貢献出来るとの観点に立ち、安全で快適で健康的な市民生活の確保に向けて努力を続けているところであります。他方で、都市の快適な居住環境には魅力ある活力ある都市空間が欠かせません。人はいつの時代も活気のある魅力的な場所に集まるものです。

そこで、本市では、市中心部の魅力アップを図るため商店街の大規模改造を商店街の方々と一緒にこの2年間で行い、続いて駅の高架化とその周辺整備や県立病院跡地利用、ウォーターフロント開発といった大規模プロジェクトを計画しているところです。一方、芸術、文化、スポーツは都市の魅力との考えから大分市全域を美術館に見たてた野外の美術館「現代美術展」の開催、若者にエネルギーの発散の場として「ストリートバスケット」や「ストリートパフォーマンス」の舞台の提供、又、美術館の建設や公共施設のグレードアップ事業などでにぎわい、うるおいのある元気な都市を目指しております。都市の魅力は「人の魅力」と考え、感動あるまちづくりへ市民の参加意識を醸成する「生き粋大分づくり運動」という市民運動を提唱し、新しいまちづくりに取り組んでおります。又、歴史、文化、風土、自然などの素材は都市の居住環境を左右する重要な要素です。これらを生かして市民とともに共有し、未来に引き継いでいくことが市民一人ひとりの真の豊かさやゆとりを実感できる快適な居住環境をつくることと理解しているところでもあります。

最後に、地理、地勢条件を生かすことも重要であり、その1つとして天然の良港であります大分港が昨年FAZ構想（輸入促進地域）の対象地域に内定いたしました。これをステップとして中国・東南アジアを対象に農水産物、食料品、日用品などを輸入し、将来的には北米、大洋州を含めた環太平洋地域まで拡大を目指す新アジアポート構想を県とともに推進しているところであります。

以上、短い時間でしたが、本市の考えなり、施策なりを紹介させていただきました。本サミットに参加されております各都市は大きな進んだ都市ばかりであり、大分市の考えや施策は参考にならないかもしれませんが、大分市に対するご理解を賜れば幸いに存じます。折角の機会ですから、是非、大分市へのお越しをお待ちいたしております。この会議をきっかけに皆様方の都市との交流が盛んになることを期待いたしております。そして、この会議からまた十年後、大分市をご覧いただく機会がありましたら、きっと大きく変貌した大分市を見ていただくことができるのではないかと確信いたしております。

それぞれの皆様の都市の発展を念願して、私の話を終わらせていただきます。ご静聴ありがとうございました。（拍手）

桑原座長 木下市長さん、ありがとうございました。これまでの大分市の発展、日本の高度成長とともに歩んできたその姿や、現在の都市づくりの取り組みについて発表いただきました。特に市民参加意識を醸成する「活き粋大分づくり運動」という市民運動に取り組まれていることは素晴らしいことだと存じます。

釜山直轄市

鄭 文 和

桑原座長 次に、釜山直轄市の鄭 文和市長さんに事例発表をお願いいたします。

鄭 文和市長 尊敬する福岡市の桑原敬一市長をはじめ、アジア太平洋地域の主要都市の市長の皆様、私は大韓民国・釜山直轄市の市長をつとめております鄭文和と申します。アジア太平洋沿岸の主要都市の市長がこのように一堂に会し、都市の発展と人間居住空間の調和について話し合えることを大変嬉しく思い、このような場をつくってくださった桑原市長に、深くお礼を申し上げます。

今、世界は、ウルグアイラウンド交渉の妥結により、WTO体制の新たな秩序を再編成する過程にあり、世界主義と地域主義の両面があらわれてきています。ここ20年の間に、世界経済は、70年代のオイルショックを乗り越え、世界規模での大改革を経験しただけでなく、生産、資源の活用、そして富の蓄積という面で根本的な調整が行われてきました。その結果、各地域において相互依存の度合いが強まり、経済ブロックが形成され、これは現在及び将来の私達の暮らしにも社会的に、経済的に大きな影響を与えています。世界経済の中心となる軸は1990年代を境に、大西洋圏からアジア太平洋圏へと移りつつあります。アジア太平洋地域のGNPは、1980年には、世界のGNPの41%でしたが、90年には50%にまで増加しています。貿易規模の方も急成長を遂げ、この地域が世界の輸出総額に占める比率は、80年から90年の間に29%から38%になりました。こうした成長ぶりは90年代に入っても続き、アジア太平洋地域は21世紀の成長の軸になると思われまます。このように、アジア太平洋地域のダイナミズムは、過去20年間のめざましい高度成長を見ればよくわかると思いますが、注目すべきことは、これらの域内経済を支えているのが各地の中堅都市だということです。そして、今やブロックとブロック、国家と国家で競争する時代から、これらの都市同士が競争し、協力し合う新体制の時

代へと変わりつつあります。今日のこの会議が国と国の連携ではなく、都市と都市の連携を基本としているのはまさしくそうした意味合いからであると思います。アジア太平洋地域の各都市がこれからの世界をリードしていくという大きな使命を担い、比較優位の競争論理ではなく、対等で協力的な友好関係と強いビジネスパートナーシップを築いていくことは、誠に望ましいことと言えましょう。ブロック化の時代におけるアジア太平洋地域の相互協力には、都市間のネットワークの形成と提携が欠かせません。それは同時に、この地域において、新しく巨大な21世紀の都市回廊、つまり（Megalopolis Corridor）が出現することも予告しています。こうした意味で、今回のこの都市サミットの持つ意義はきわめて大きく、私ども釜山直轄市も参加できたことを大変光栄に思います。朝鮮半島の南東に位置する釜山直轄市は、人口400万の韓国第二の都市であり、国内最大の港湾都市でもあります。釜山は、山と川と海が調和した恵まれた自然環境を持っており、多くの文化財があり、又、観光・海洋・水産などの資源も豊富です。釜山港は、1876年に開港して以来、国際港として発展を続けました。今では北東アジアの国際貿易において中枢的な役割を果たしています。現在、韓国内の年間コンテナ荷動き量の95%を扱っており、これは世界の貿易港のうちでも第5位となっています。21世紀のアジア太平洋時代の到来とともに、その役割はますます大きくなっていくでしょう。又、釜山直轄市は韓国の玄関であるだけでなく、太平洋とユーラシア大陸を結ぶ関門、つまり（Gate City）としての役割も大きく期待されています。

一方、釜山は急速な成長と発展を続け、自動車の急増による交通渋滞、住宅不足、そして環境汚染など世界の他の大都市と同じような都市問題が深刻になっています。釜山市はこのような問題を解決するため、環境と開発の調和をとりながら、新しい都市としての成長を目指すべく多くの施策を行っていますが、具体的なことについてはここでは触れません。これまで釜山直轄市の開発軸は、都心部を中心に東北の方向に伸びていましたが、これからは韓国最大の河川・ナクトンガン（洛東江）を中心に21世紀の望ましい都市空間づくりを目指すべく、西釜山圏開発に未来を託しています。西釜山圏には新しい空港と港湾の建設を計画しており、海岸を埋め立てて、臨海工業団地や観光団地、そしてその背後には住宅団地もつくる計画です。快適な住空間、ビジネス空間をつくりだし、バランスのとれた都市発展を図り、国際化、情報化の時代に備えて先端情報産業をナクトンガン河口に育成することが出来れば、21世紀の釜山直轄市は韓国を代表する太平洋時代の拠点都市になるでしょう。同時に、釜山の周辺部を発展させるため、広域開発プロジェクトも進めています。これはニュータウンの建設、周辺の工業団地を造成して、各種の都市機能を市の外郭へ分散させ、バランスのとれた地域開発を目指すものです。又、現在建設中の10本の港湾道路などの環状道路網と広域交通網を2000年までに完成させ、釜山メトロポリタン地域の交通問題を根本的に解決していく方針です。とりわけ、2002年にソウルと釜山を結ぶ高速鉄道が開通すれば、朝鮮半島は言うまでもなく、東アジア全体の中で釜山の役割は一層大きなものとなるはずです。

来るべきアジア太平洋時代において、釜山直轄市は、94年を「釜山国際化元年」と決めました。釜山直轄市は世界に開かれた都市であることを宣言し、魅力ある国際都市づくりを進め、その機能を十分発揮できるよう最大の努力を払っています。特に「釜山世界貿易センター」の建設には力を入れています。このため現在スヨン飛行場跡地に、各種の展示場と国際会議場、イベントホール、その他の関連施設など、全てを整えた「釜山国際総合展示場」の建設計画も持っています。この「釜山国際総合展示場」と「釜山世界貿易センター」が完成すれば、釜山は名実とともに2000年代の北東アジア経

经济圈時代にふさわしい先端貿易都市となるでしょう。そして、2002年に開催される第14回アジア大会の誘致にも市民をあげて努力しております。これからはアジア太平洋域のイベントはもちろんのこと、様々な国際イベントをより積極的に開催していく考えです。

アジア太平洋時代を迎えるにあたり、本日のこのような会議は誠に意義深いものであると思います。こうした都市サミットがこれからも回を重ね、協力と善意の競争を基盤に、お互いにとって有意義な国際会議となっていくことを願います。21世紀の世界都市を目指す釜山としても、アジア太平洋地域の共存共栄のために最大の協力及び声援を送ることを誓いながら、発表を終えたいと思います。ありがとうございました。(拍手)

桑原座長 鄭市長さん、どうもありがとうございました。釜山直轄市の発展の推移と、アジア太平洋に向けた今後の都市発展を図る各種事業について発表いただきました。韓国を代表する太平洋時代の拠点都市を目指す力強い取り組みが推進されることを祈念いたします。

佐賀市

西村正俊

桑原座長 次に、佐賀市の西村正俊市長さんに事例発表をお願いいたします。

西村正俊市長 ご紹介いただきました佐賀市長の西村でございます。アジア太平洋地域からお越しの皆様方、そして九州・沖縄の8都市の市長さんとともに、このように発表する機会を与えていただきまして、大変喜んでおります。この場をおかりいただきまして、桑原福岡市長様はじめ、関係の皆様方に感謝を申し上げる次第でございます。

それではこれから佐賀市の紹介をいたしたいと思いますが、かたい話はやめまして、楽しいお話をさせていただきたいと思っております。ですから、活字を離れて前方のスライドをご覧くださいと思います。さて、佐賀市は、一体どこにあるんでしょうか? …ご覧のように北京、朝鮮半島、福岡、或いは唐津を経て佐賀へ、又、香港からは沖縄、鹿児島、或いは長崎を経て佐賀の方へ、それぞれの延長線上にあるわけでありまして、佐賀市は九州の中央、有明海の湾の奥の方に位置しておりまして、福岡、熊本、長崎の3つの県に大切に守られているわけでありまして、現在、佐賀市から車で約20分の有明海の沿岸に佐賀空港が建設されております。佐賀から飛行機でソウルへは2時間、香港へは約4時間半、シンガポールへは約7時間半の位置にあります。さて、その次は佐賀市の姿であります。市内の小学生が佐賀市の姿を見て「映画に出てくるあるものに似ている、だから好きだ」、こう言ってくれました。さて、そのあるものとは何でしょうか? …もうわかりましたですね。これはゴジラの絵でございます。世界的に有名なあのゴジラです。皆さんにもお馴染みの怪獣のゴジラに似ているという子供たちの発想から、佐賀市は今「ゴジラの脱皮」と称しまして、新しく生まれ変わろうと、イメージアップに取り組んでおります。聞くところによりますと、次のゴジラの映画では、この九州に上陸いたしまして、福岡市を壊してしまうという話が進んでいるようでございます。

さて、佐賀平野は約2000年前までは有明海の海の底でございました。その後、自然の陸化、或いは人の手による干拓によりまして、大変広い肥沃な佐賀平野が生成されました。佐賀平野の面する有明海は干満の差が日本一でありまして、最大6mにも及びます。佐賀平野は標高が0mから3m、地面が平らで、排水条件が悪いなど過酷な自然条件下にもあります。佐賀市は低平地でありますから、低平地に住む「辛さ」とか、或いは「楽しさ」をどこよりもよく知っているわけでありまして、そのために

地元の佐賀大学では、日本で初めての「低平地防災研究センター」が設立されております。そして、同じ悩みを抱えておりますアジアの国々の研究所と協力をいたしまして、技術交流、人的交流が進められるなど、大変ユニークな活動も行われているところであります。さて、佐賀市は17世紀には城下町として栄えまして、今日の町並みがつくられたわけでありまして、それは、優れた先人の技術によって佐賀地区独特の水路体系を持った町並みであります。クリークや河川が網の目のように張り巡らされた水網都市であります。市内の河川は総延長が約2,000kmに及んでおります。「家の前を川が流れ、そして裏を抜けまして、さらに庭木の間を清流が流れる」と、人々に不思議がられるようにきれいな水路が縦横に市内をめぐるまして、水とは深い関わりを持って、水と共に暮らしてまいりました。しかし、このような水辺空間も生活環境が変化をしまして、河川に対する意識が変わりまして、河川の汚濁は恐るべきスピードで進みました。悪臭が漂い、ドブ川同然に汚れたものもあり、生活環境の阻害要因ともなった時期がありました。しかし、下水道の普及などによって、川は少しずつ昔の水質を取り戻してまいりました。それにもまして、忘れてならないのが市民の川を愛する心であります。昭和50年代、小さな市民のボランティア活動から始まりました河川清掃運動が、今では春と秋の市民総出の河川清掃になっております。川の水がきれいになっただけでなくて、水を大切にするという心や街づくりに対する関心も高まってまいりました。水辺では市民による様々なイベントが行われておりますので、ご紹介いたしたいと思っております。その1つは、日本の伝説にあります「かっぱ伝説」にちなんだお祭りをやっております。今、かっぱさんが誕生しているところです。桜の花が咲くころになりますと、このように川沿いに「桜マラソン」と言ひまして、マラソン大会が開催されます。これが桜マラソンです。夏になりますと、このようにカヌーを楽しむ子供さん達がいっぱいおります。佐賀では、町の中心部にある川、これがそうでございますが、そこでは子供たちがプールと同じような気持ちで泳いでいるわけでありまして、佐賀市は、この市民の水を愛する心を大切に、ゆとりとうるおいの持てる生活環境をつくり出していくために、水辺空間と緑地空間をネットワークしたまちづくりを行っているのであります。その水辺空間の一つ、嘉瀬川という川がありますが、その河川敷をメイン会場に毎年繰り上げられる世界的なイベントがあります。(バルーンの出る音) 今、故障じゃないかと思ってみんな見ていらっしやいますけども、何の音でございましょうか？これは。…晩秋の佐賀がこの音で夜が明けるとあります。これはバルーンの出る音ですね。毎年、秋から冬にかけて広大な佐賀平野には色とりどりのバルーンが浮かびます。11月の下旬には「サガインターナショナル・バルーンフェスタ」が開催され、世界各国から100機以上のバルーンと800人の選手が参加をいたします。90万人以上の観客がここに集まります。大会は多くの市民の熱意と協力によって支えられておりまして、既に13年の歴史があります。1989年には、アジアで初めての熱気球世界選手権がここで開催されました。また、そのために市民の間では草の根的な国際交流が行われております。佐賀らしい気取らぬ温かいおもてなしがされておまして、世界中の選手達からおほめの言葉をいただいております。このバルーンフェスタがとりもつ縁で、アメリカのグレンフォールズ市、それからウォーレン・カウンティと姉妹都市を提携いたしまして、今、交流を深めております。この季節になりますと、人々はフッと空を見上げます。バルーンは、地面ばかり、人の顔ばかり見て忙しく生きている私達に空を見上げる機会を与えてくれます。

さて、佐賀市は、今「九州一住み良い都市」と評価をされております。それは「風格と躍動の人間都市」を目指しまして、都市基盤の整備や生産基盤の整備に努めたことが評価されたものであります。

しかしそれ以上に、私達が「もの」だけをつくる時代がもう終わっている、そして住み心地の良さということを理解した「ひと」だけが、快適な「もの」をつくることが出来るということを理解してくれたからであります。更に、行政と市民が一体となって東京でもない、もちろん福岡でもない「佐賀らしさ」を求めまして、高齢者や障害者にやさしいまち、個性と住みやすさを追求した夢のあるまちづくりを目指しているからにはほかならないのであります。(バルーンの音が出る) また、先ほどと同じような音がいたしましたけれども、これは晩秋の佐賀の朝ではありません。これはアジア太平洋の皆さんと、九州の、そして佐賀市との新しい交流の夜明けの音であります。

最後になりましたが、1997年には再び佐賀の地で熱気球の世界選手権が開催されます。佐賀は気取らないまちです。温かい雰囲気のある漂うまちです。皆様、どうぞ、佐賀へお越しくださいませ。心からお待ち申し上げております。ありがとうございました。(拍手)

桑原座長 西村市長さん、どうもありがとうございました。市民とともに進めておられる「佐賀らしさを求めるまちづくり」について発表していただきました。弱者に優しい個性と住みやすさを追求していく夢のあるまちづくりを目指しておられることは素晴らしいことと思います。

## 上 海 市

夏 克 強

桑原座長 次に、上海市の夏 克強副市長さんに事例発表をお願いいたします。

夏 克強副市長 桑原市長様、ご列席の皆様、こんにちは。アジア太平洋都市サミットに参加できたことを、心から喜んでおります。ここに上海市政府を代表しまして、サミット関係者の皆様にお喜びを申し上げます。これから、スライドを使用し、「21世紀に向けた上海の経済と環境の調和」というテーマで意見を述べさせていただきます。

上海は、太平洋西岸の中央、ユーラシア大陸の終点に位置し、わが国最大の商工業の中心であります。人口1,294万人、全市の面積6,340km<sup>2</sup>、うち市街地は792km<sup>2</sup>です。90年代に入ってから、上海の経済は急速かつ健全な発展を続けています。このスライドの左側に、上海のここ数年のGNPデータが表示されています。この表から分るように、ここ数年の平均成長率は10%を超え、1993年の全市のGNPは1,509億元で、前年比14.9%の伸びを記録しました。右側の図をご覧くださいと、第三次産業の割合が10年前の24%から38%に増加していることが分ります。次に第三次産業の例をご覧ください。

これは、にぎわいを見せる南京路の商店街です。

これは、上海の証券取引所で、昨年の取引額は5千億元を超えています。

これは、国内先物特設取引所で、ここでも昨年の取引額が5千億元を超えています。

上海は揚子江と海に面した港湾都市で、交通輸送機能が非常に発達しております。国内外の400余りの港湾と通航しており、1993年度の貨物取扱量は1億7600万トンでした。

これは、コンテナ埠頭、次は外高橋の埠頭の1つです。

上海には、2本の鉄道幹線と国道4本があり、全国の鉄道および道路網と接続しています。これは、虹橋国際空港で、この空港を通して世界各地の主な都市とつながっています。上海は、又、国内でも有数の工業都市として知られています。鉄鋼、石油化学工業、自動車製造業、発電所プラント設備、コンピューター、家電、航空機製造、宇宙工業、更に通信、紡織、マイクロエレクトロニクス、バイオ



しかしそれ以上に、私達が「もの」だけをつくる時代がもう終わっている、そして住み心地の良さということを理解した「ひと」だけが、快適な「もの」をつくることが出来るということを理解してくれたからであります。更に、行政と市民が一体となって東京でもない、もちろん福岡でもない「佐賀らしさ」を求めまして、高齢者や障害者にやさしいまち、個性と住みやすさを追求した夢のあるまちづくりを目指しているからにはほかならないのであります。(バルーンの音が出る) また、先ほどと同じような音がいたしましたけれども、これは晩秋の佐賀の朝ではありません。これはアジア太平洋の皆さんと、九州の、そして佐賀市との新しい交流の夜明けの音であります。

最後になりましたが、1997年には再び佐賀の地で熱気球の世界選手権が開催されます。佐賀は気取らないまちです。温かい雰囲気のあるまちです。皆様、どうぞ、佐賀へお越しくださいませ。心からお待ち申し上げております。ありがとうございました。(拍手)

桑原座長 西村市長さん、どうもありがとうございました。市民とともに進めておられる「佐賀らしさを求めるまちづくり」について発表していただきました。弱者に優しい個性と住みやすさを追求していく夢のあるまちづくりを目指しておられることは素晴らしいことと思います。

上 海 市

夏 克 強

桑原座長 次に、上海市の夏 克強副市長さんに事例発表をお願いいたします。

夏 克強副市長 桑原市長様、ご列席の皆様、こんにちは。アジア太平洋都市サミットに参加できたことを、心から喜んでおります。ここに上海市政府を代表しまして、サミット関係者の皆様にお喜びを申し上げます。これから、スライドを使用し、「21世紀に向けた上海の経済と環境の調和」というテーマで意見を述べさせていただきます。

上海は、太平洋西岸の中央、ユーラシア大陸の終点に位置し、わが国最大の商工業の中心であります。人口1,294万人、全市の面積6,340km<sup>2</sup>、うち市街地は792km<sup>2</sup>です。90年代に入ってから、上海の経済は急速かつ健全な発展を続けています。このスライドの左側に、上海のここ数年のGNPデータが表示されています。この表から分るように、ここ数年の平均成長率は10%を超え、1993年の全市のGNPは1,509億元で、前年比14.9%の伸びを記録しました。右側の図をご覧くださいと、第三次産業の割合が10年前の24%から38%に増加していることが分ります。次に第三次産業の例をご覧ください。

これは、にぎわいを見せる南京路の商店街です。

これは、上海の証券取引所で、昨年の取引額は5千億元を超えています。

これは、国内先物特設取引所で、ここでも昨年の取引額が5千億元を超えています。

上海は揚子江と海に面した港湾都市で、交通輸送機能が非常に発達しております。国内外の400余りの港湾と通航しており、1993年度の貨物取扱量は1億7600万トンでした。

これは、コンテナ埠頭、次は外高橋の埠頭の1つです。

上海には、2本の鉄道幹線と国道4本があり、全国の鉄道および道路網と接続しています。これは、虹橋国際空港で、この空港を通して世界各地の主な都市とつながっています。上海は、又、国内でも有数の工業都市として知られています。鉄鋼、石油化学工業、自動車製造業、発電所プラント設備、コンピューター、家電、航空機製造、宇宙工業、更に通信、紡織、マイクロエレクトロニクス、バイオ

テクノロジーなどが、既にかかなりの規模に達した、或いは現在急成長を遂げつつある支柱産業となっています。上海の都市建設も新たな飛躍を見せています。先程の図で示した通り、ここ数年、インフラ整備に対する投資は大幅に増えており、1993年の投資額は、80年代の総計に等しい190億元に達しました。ここ数年の間に、楊浦大橋、南浦大橋、更に立体交差橋が相次いで建設されました。

これは、揚子江をくぐる越江トンネルです。

これは、上海初の地下鉄です。

これは、高架道路です。

これは、高速道路です。

通信も、我々上海のインフラ整備計画における重点投資項目です。これは、ここ数年の電話回線の増加を示す統計表です。1993年の時点で交換機の容量は既に50万回線を超えています。経済の発展と同時に、市政府は環境整備にも力を入れています。我々は、経済の発展及び都市建設と環境整備を、同時進行で計画・実施していく方針です。中心地区では工場の拡張や建設を許可しないことにしております。建設項目をチェックし、まず環境評価を行ってから建設に取り掛かります。

汚染をもたらすおそれのあるプロジェクトでは、生産品の設計・施工・操業の各段階で、生じるおそれのある汚染に対する必要処置を同時に実行することを義務づけています。処理措置を講じていない汚染プロジェクトは一切許可されません。市と区県の両地方政府は環境の保護・監督機構を設置し、「群防群治（市民による汚染防止と汚染処理）」をスローガンに、政府と民間とが協力して環境保護に務めています。政府は、産業構造や工業製品構造、工場配置などの調整を行い、公害のおそれのある工場を市街区から移転させるための重点区域の整備をすすめています。又、汚染物質の排出重量規制を実施するとともに総合的な整備をすすめ、廃棄物の有効利用等の方法で環境の改善に力を注いでいます。1990年代以降、基本的に、「工業生産は増やすが汚染は増やさない」という方針をとっているため、工業汚染の拡大は抑制されています。

上のスライドは、黄浦江上流の飲料水、そして揚子江の飲料水工程と汚水処理工程です。これらはいずれも上海の水源汚染問題を解決するものです。

このスライドは、黄浦江飲料水工程の中の中継ポンプ所です。

これは上海の汚水処理の工程で、こちらはごみ処理場です。

ここ数年、上海は緑化にも力を入れてきました。これは、すでに建設されている森林公園、緑地帯、植物園です。

これは、上海の「大観園」です。

これは、ガス工場ですが、住民の石炭燃焼による大気汚染を緩和するため建設されました。我々は、いつも住民の居住条件を第一優先させて行政を行っております。80年代中期、63の大型居住区の建設・拡張を行いました。これは、居住区の分布図です。10年間で建設した住宅の延べ床面積は約4,000万 $m^2$ で、去年は610万 $m^2$ を建設しました。今年700万 $m^2$ が竣工される予定です。先程の2枚のスライドは、上海の高層住宅街と中層住宅地域です。上海の住宅建設につきましては、分科会で更に詳しく報告したいと思います。

浦東新区では、広域開発の第一段階が予定より早く完了し、同時に浦西に以前からあった小規模開発区もさらに進展しております。

この図は、国の許可を経て進められている7つの開発区の位置を示したものです。

これは浦東、外高橋の自由貿易区で、現在すでに2km<sup>2</sup>の開発が完了しております。図の下、角に見えますのが、日本のJVC工場です。

これは、浦東の金橋輸出加工区です。今年までに進出を決めたプロジェクトは200件、建設に着手したものの100件、年内に30の工場が正式操業に入ります。

これは、既に起動している浦東の張江ハイテク団地です。

これは、浦東陸家嘴の金融貿易区にあるビルの写真です。現在、既に50棟の建設が着工されており、年内には5棟が完成、使用開始の予定です。

これは、浦西の民航経済技術開発区で、基本的には既に建設が完了しております。

これはマイクロエレクトロニクス、メーター、計器類を中心とした曹淮区のハイテクゾーンです。

これは、既に基本的な規模に達している虹橋開発区です。

この10年近い努力の結果、上海においては、発展と同時に都市の生態環境面でも一定の改善が見られました。しかし、歴史的に残された問題は多く、また人々の環境意識もまだ低いため、一部の措置ではまだまだ力不足の感があり、不十分な面も数多く見られます。いま、上海が発展する中で直面している大きな問題は3つあります。まず、旧市街区の老朽化です。現在、改造修理が至急必要な老朽住宅は300万m<sup>2</sup>あります。次にインフラ施設の弱さです。都市の近代化に対応できず、特に市内交通の混雑は深刻です。最後は、環境汚染の問題です。抑制されてはいるものの、公害を根本的になくすことは重大な任務であります。かなりの数の住民について、居住環境の改善が必要とされています。

現在、上海では21世紀に向けての都市発展戦略を策定しています。

このスライドの赤い線で囲った部分が我々の戦略目標です。2010年までに上海を国際的な経済、金融、貿易の中心とし、浦東を世界の最高水準を満たす外向・多機能型近代的新区とすることを基本目標として都市建設を進めています。国際的な経済の中心都市として、上海は今後更に、集散機能、管理機能、サービス機能、生産機能、創造機能の5つの基本機能を充実させていかなければなりません。

これは、全体構想の完成予想図です。都市の配置を再整理し、都心部、衛星都市、地方都市、郊外区中心小都市で構成される、多層型の複合都市を建設します。この都心部には中心業務地区、中心商業区、内環区、外環区を建設して、近代化された国際都市に必要な機能を充実・強化していきます。

これは、2000年における経済発展の予測図です。更に、我々は近代的国際都市に不可欠なインフラ施設の総合システムを確立しなければなりません。まず、便利で効率的、又、安全な総合交通網の構築が必要です。それから、東・西・南三方向の廃水せき止め工事を行い、市街区の工業廃水が内河に直接流れ込まないようにします。更に、廃水処理工程の末端に大型廃水処理場を建設することで、都市廃水の汚染問題を根本的に解決していくつもりです。又、有害ガスの回収・利用を促進し、大気汚染を最大限削減するため、産業用燃料の構造を改善しなければなりません。都市ごみの回収、再利用、埋め立て、焼却処理システムを確立し、緑地の大規模な開発にも力を入れていきます。先程のスライドは、上海全体の緑地計画です。

私達はまた、市民の教育や雇用、社会、交流と生活環境の質の向上を目標におき、市民を中心とした行政活動を行っています。物質と精神の両面で充実した公共サービス施設がそろい、十分な雇用の機会があり、良好な治安体制と便利な交通、美しい空間環境を備え、経済発展とともに人の資質をも共に向上させるような総合的都市を建設していきます。

このスライドは、現在建設中の浦東新区陸家嘴金融貿易区の模型です。世界経済の発展傾向は、アジ



- 1 工業や商業活動を土地利用の種類によって分けられた周辺地域にそれぞれの活動内容に則して移転するよう奨励し、市街地中心の渋滞解消を図る。
- 2 人口密度の高い団地、レジャー施設、産業地域を互いに近い距離に建設し、労働者の通勤ニーズを減らす。
- 3 島内の何処へでも移動しやすいように、優れた道路網と公共交通システムを建設する。
- 4 市街地の住環境を緑地や湖・海など水辺と調和させる。
- 5 差し迫ったニーズを満たすための土地の利用を一時的には認めながら、最終的にはその土地が最適な用途に使えるようにしておき、将来の土地利用ニーズに対応する。

今では、コンセプト・プランは、シンガポールの長期的な土地利用と交通に関する参考資料になっています。新たな計画対象、産業構造、人口構成を反映するため、10年毎に改訂が行われています。コンセプト・プランの実施により、いろいろな結果が出ました。例えば、政府からも助成金が与えられ、島内の数多くの場所で大規模な団地が建設されました。又、南西部の工業団地の建設、国際空港の東部への移転、高速道路網建設、大量高速輸送システムの運転開始なども挙げられます。しかし、そのような広い概念を示すコンセプト・プランは、各地区の将来像を描くには不適當でした。もっと細かいレベルで、効果的な計画達成を助ける方法が、開発指針計画です。開発指針計画では、シンガポールは55のゾーンに分割され、計画者は、コンセプト・プランに示された各ゾーンの主要な土地利用に従って、各部分の土地がどのように利用されるかを詳細に決めていきます。計画者は、住宅、学校、産業、店舗、公園、その他のアメニティ施設を適切な割合で互いに近づけて、しかし十分に分離しながら配置します。ほとんどのゾーンの開発指針計画は、全ての住民が住んでいる場所から半径2km以内で職場を見つけ、レジャー施設を利用できるような内容になっています。計画がうまく展開されるように、関連するインフラの整備に責任を負う全ての政府機関との協議が定期的に行われます。必要な場合には、規制局による特殊な依頼に対応するための調整も行われます。又、芸術、教育、建築、社会学、スポーツに関わる29の政府機関と更に多くの民間部門組織に計画を助けるためのアドバイスを依頼します。指針計画のいくつかは、段階毎に実施されます。現在、計画者は、2000年、2010年、2030年までに達成する開発目標の作成に取り組んでいます。又、市街地中心部や大変重要なシンガポール川、そして新しいダウンタウンの商業地区に関する計画を特に重点的に進めるため、複数の特別委員会が設立されています。

私達の計画の目的を達成するためのもう一つの重要な戦略は、国有地の売却です。土地の約70%は国が所有しており、政府は、民間部門の成長を促進するため、一貫性のあるプログラムに基づいて、民間による開発のために土地を売却しています。土地を売る際、政府は、許可される開発の種類や程度、交通アクセス、設計条件など、計画の必要条件を提示します。こうすることで、コンセプト・プランと開発指針計画が厳守されます。私達は、今、21世紀に突入しようとしています。その21世紀に向けて、私達は市のために以下の事柄の達成を目標に掲げています。

- 1 それぞれ人口80万までの新しい商業中心地を4ヶ所作り、市街地中心に集中した商業活動を分散する。
- 2 政府は、公共住宅の質を更に向上し、より幅広い選択肢を提供する。民間の建設業者が、設計と住宅コンセプトをより柔軟に考えることを許可する。
- 3 ビーチ、マリナー、リゾートの数を増やして、海岸地域を更に発展させる。今後も、シンガポー

ルが自然の公園、水辺、豊かな緑に溢れるガーデン・シティであり続けられるよう努力する。

- 4 レジャー、レクリエーション、娯楽、文化施設を増やし、生活の質を向上する。新しい劇場、美術ギャラリー、コンサートホールのための用地を確保する。
- 5 地下鉄の路線を増やし、新たな軽便鉄道システムを建設し、車の流れを改善するよう道路や交通管理を改善して、公共輸送システムを拡充する。
- 6 快適な住環境、活気ある文化的環境、歴史的遺産の尊重、魅力ある投資環境、そしてアジア太平洋地域に向けた世界有数の都市への成長を目指す。

以上、シンガポールのコンセプトプランと開発指針計画を中心に発表させていただきました。どうもありがとうございました。(拍手)

桑原座長 ヤオ国家開発省政務次官さん、どうもありがとうございました。経済発展の推移とコンセプト・プラン、開発指針計画に基づく各種事業の取り組みについて具体的な発表をいただきました。全ての関係機関による協議を定期的で開催し、計画の推進を図ることは他の事業を推進するにはモデルになると思います。

以上で21都市の事例発表は終了いたしました。ここで、古賀助教授、林教授に7都市の事例発表及び全21都市の総括を含めたコメントをお願いいたします。

まず、古賀先生、どうぞよろしく願いいたします。

#### 【コメンテーター】

古賀幸久助教授 午前の部及び午後の部を通じまして、魅力ある都市づくりという問題は地域づくりの問題でもあり、相互に協力して協調していかなければいけないような点とか、或いは行政、政策決定者などの心や質のより一層の充実とかいうふうな点についてお話をした次第であります。いずれにしてもこういう都市づくりというのは、都市としての機能を維持するとともに、文化的で、かつ個性的、歴史的でなければいけないという宿命があるかと思えます。

そこで、このような都市をつくるために、個性的ないろいろな政策を各市の担当の方が努力をなされている状況がお話をうかがいまして、よくうかがえる次第です。

長崎市におきましては、観光都市から国際会議都市へ転換されようとしておりますし、又、広域定住圏の整備などにも非常に尽力をされておられます。生活や環境の質の向上とか、斜面市街地の整備問題等に対して努力もなされておられます。そういう姿勢がうかがえました。

那覇市におきましては、人口流入、無秩序な市街地化が進行しているなどのお話を聞くことが出来ました。都市再開発事業や個性ある居住環境の整備に努力しておられまして、厳しい状況の中にあつて、住宅や都市の整備に努力しておられる様子がうかがえました。

大分市におきましては、環境問題に積極的に対応されて、「人と自然の共生にふさわしいライフスタイルの確立」ということに努力されておられます。

釜山市におきましては、急速な発展に伴って交通、住宅、環境問題等が発生して、深刻化しているかと思えます。一方で先端貿易都市としての機能的発展に努力されるとともに、アジア太平洋地域を総合的に捉えた積極的姿勢がうかがえます。

ゴジラに似た佐賀市ですが、ボランティア意識の高さを評価したいと思います。人のみが快適な「もの」をつくるという信念から、市民総出の河川の清掃運動を実施されるなど、水を大切に作る心を養

っておられ、こういうところが非常に好感が持たれました。

上海市におきましても、都市基盤、住宅環境の問題等があります。経済発展と都市開発及び環境問題へのバランスのある対応に努力されておられますが、バランスある今後の積極的な対策を期待したいと思います。

シンガポールにおきましては、現在、民間投資、民間開発の促進を奨励されておられますが、快適な住環境、投資、環境都市として早い時代から先取りしたきめの細かい都市づくりが実施されています。政府機関との定期的な協議が実施されたり、或いは2030年までの長期的な開発目標が作成されているなど、他の都市とは条件は違いますが、都市計画という観点から多く見習うべき点があるかと思えます。

各市の主張、お話の中身は、それぞれ多様性がありまして、言葉の上では同一のようなものであっても、その地域により中身がそれぞれ異なる。様々な地域に対して、様々な理解をしなければいけない、そういう相互理解が必要であろうかと思えます。他方で、同じような言葉の他に言葉そのものが違っても共通の問題点というものがあるわけで、そういう共通の問題点に対する深い共通認識というものを持っていく必要があるかと思えます。こういう相互理解と共通認識というものを通じまして、協力及び交流を促進させていくことが非常に重要であるわけで、20世紀は都市の発展の時代でありましたが、これから21世紀は都市がいかに充実をしていくかという時代にさしかかっているかと思えます。アジアの各都市が対等で友好的な協力関係を促進して、そして強力なパートナーシップで結びついて、それを育てていくことが最も重要であろうかと思えます。そういう中で、各都市が共通点及び相違点から相互に学び合って、それぞれの都市がそれぞれの長所、短所を生かしながら創造していくという姿勢が必要であります。都市問題の原因である人口流入問題というものの解決策といたしまして、最も手っとり早いことは地域経済の活性化、地域の雇用の促進などが挙げられると思えますが、そのための手段としては、いわば政府開発援助（ODA）などの対象となる性格が強いということも一般的であろうかと思えます。しかし、それでは実はきめの細かい都市環境というものをつくることは、なかなか困難な時代でもあるように思えます。地域の相互の間で、協力、協調していくべきことが非常に多くなっているように感じます。そういう意味から、NGO、民間団体等の強力な推進も必要となってくるでありましょうし、又、その根源となります市民のボランティア意識の育成ということが非常に重要になってくるように思えます。現時点では、都市間の協力というものは、始まろうとしている段階と言えるかと思えますが、未だ具体的な青写真というものが出来ていないわけです。そこで、これから具体的な青写真をつくり上げるためにも、都市の充実を確保する上においても具体的な青写真をつくり上げていくということが大きな課題であるかと思えます。そのための準備として提案したいことは、人的交流を進めていくということです。そして、それによって人材を育成していくことが必要であります。そこから都市や地域のリーダーシップをとれる優れた指導者を今後も育成していくことが一番大事なことではないかなと思えます。行政担当者、政治家、或いは各種の専門家、民間の方々、こういう多種多様な人的交流を育成して、それぞれの専門の立場から、それぞれの長所、短所を学び合って、今後の都市づくりに生かしていくということが大事であろうかと思えます。明日から分科会が開かれますが、こういう話の具体的な展開に期待していきたいと思えます。今後、本会議が、そういう観点から相互に学び合って、何か具体的にできるものを探り、検討し、意見交換の場として継続することは大いに意義があることかと思えます。具体的な政策や結果を得るには

多分に時間がかかる問題であろうかと思ひますし、又、早急に結果を得ようとすればするほど、崩れやすいものでありますから、やはり十分に時間をかけながら、確固としたものをつくっていくことが大事であろうと思ひます。そういう意味からも、今回、この会議の開催のために尽力されてくださった桑原市長、及び福岡市のご努力を評価したいと思ひます。

桑原座長　　ありがとうございました。それでは林教授、どうぞよろしくお願ひいたします。

### 【コメンテーター】

林　一信教授　　先ほど、シンガポールの代表の方が、「我々は大変恵まれた時代に集まる事が出来た」ということをおっしゃいました。全くそのとおりだと思います。私が最初に申しましたように、世界の中で、今最も高い経済成長を遂げているこのアジア、その中において、ようやくそれに伴うもっと豊かな、もっと住みやすい条件をつくっていかうということを考える余裕が出てきたと思うんですね。最初の経済成長を基本的に、まず第一次的にやる場合には、なりふり構わずとにかく他のものを犠牲にしても経済成長率を上げなければいけないという時代が、次第に終わりに近づいているということ。それには各国の間の協力が要ることが非常に大事になってきたんだと思ひます。従来の協力の仕方ではありますが、例えば経済借款をする、或いは技術協力をするというような場合には、国対国の段階でやれば十分だったわけでございます。ところが、今回のような住宅であるとか、交通であるとか、環境であるとか、今これだけ皆さんがお話になったテーマ1つ1つを取ってみても、それぞれ置かれた都市の状況は全部違うわけでありまして、それを国全体で、例えば日本の都市とか、中国の都市とかというような形で議論すること自身がナンセンスであります。より具体的な問題で地方対地方において議論しなければならないと思ひます。しかし、それは中央を離れた地方が勝手にいろいろなことをやるということではないと思ひます。その結果はまたフィードバックされて積み上げられて、中央の施策にはね返りますし、また中央政府をそれで突き動かしていくというような形にならないと考へます。そこで、最後になりました7つの都市について、これは非常に偶然でございますが、同じような性格の都市が集まりました。

まず、海外の3つの都市、上海、シンガポール、釜山、これは見ただけでわかるようにアジアでも有数の港湾都市がそこに並んでおります。これに香港が加われば恐らく全部になります。特にコンテナ埠頭として考へます場合には、世界でも指折りの港湾が全部並んでいるわけです。そのお互いがどうやって、今後協力していくかという問題があると思ひます。特にいろいろな交通手段として考へる場合に、一方で、アジア同士を結び合うランドブリッジ構想というのも考へられます。また、テクノスーパーライナーという超高速船が出ることによって、物流の機能自身を従来のようなものではなくて、もっと別の形のものも考へてみる必要があるのではないかと考へられます。更に上海にしましても、釜山にしましても、それぞれ西釜山圏とか、或いは上海の浦東開発とか、或いはシンガポールの新しい商業の中心を分散していくというやり方、こういう形の新しい、更に野心的なことに取り組まれていることに非常に大きな感銘を受けたのであります。

日本の4つの都市、これもまた偶然でございますが、古くから国際化に非常に縁のある都市ばかりでございます。長崎は言うまでもありません。日本の唯一の徳川時代の開港の場所でありまして、琉球の那覇の占めます位置というの、これも非常に大きな国際交流の場でありまして。大分は大友宗麟以



来、南との関係が深いところであります。佐賀は唐津を通じまして、大陸との交流が深いところであります。これは九州というのが、現在は日本の一番西でありますが、もともと歴史で言いますと、むしろ対外交流ということでは中心であった。更に鹿児島島の種子島の鉄砲は言うまでもありません。あらゆる形で一番国際交流の盛んな場所であった。それがまた再び復活したんだということが言えるのではないかと思います。そこで、先ほどいくつか積み残した問題がありますので、これは明日以降の宿題になるのではないかと申し上げておきたいと思ひます。例えば、さっき出ました市街電車の問題ですね。モータリゼーションがこれだけ進んで市街電車が邪魔になっているということがあります、今、九州が一番市街電車がたくさん残っているわけです。鹿児島がそうですし、それから本島市長はお触れになりませんでした、長崎の市街電車が一番経営状態が良いという形で残っているようですね。それから熊本がございませう。そういうものも一方で見直す必要があるのではないかと申す問題提起がありました。これは非常に貴重だと思ひますので、交通分科会の方でお考えいただいたらいいんじゃないかという気がいたしました。それから、高度成長のみを狙うのではなく、もっと住みよい都市を狙うべきだという意見が方々で出ております。佐賀のようないき方もありますし、オークランド、イポーのやり方もあります。いろいろないき方があると思ひますが、これはまた環境の問題のところまで十分に議論を尽くさなければいけないと思ひます。

要するに、今までの高度成長時代のことを考えますと、この経験では、まず日本が一番最初に高度成長に突入します。その後、アジアNIESの数カ国が追っかけて来ます。さらにその後をASEAN諸国が追っかけて来るといふような形で、アジアの高度成長は進んできたわけですが、都市問題になりますと、こういう順序は成り立たないわけです。あらゆるところが悩みを持っておりませうし、また、あらゆるところが他に対して模範を示す要素も持っているわけですね。例えば住宅問題につきましても、シンガポールのように、ほとんど国が住宅を供給出来たというところがありますし、それからオークランドのような環境を十分にらんだ上での住宅問題の配慮があるところもあります。環境問題になりますと、これはこれから開発しようとするところの環境に対する配慮と、既に成長が進んだ中で一度ひどい環境になった後で、更に今、環境問題を解決したという北九州市のようなすばらしい例もあるわけですね。北九州にあります国際協力事業団(JAICA)の研修センターに、一番研修で各国から来られるのは、環境問題についての研修生であります。

交通問題は先ほども言ひましたが、空港問題1つとりましても、九州の中での空港のお互いの住み分けの問題、これに更に佐賀空港ができ、北九州空港ができた場合に、他の地域と比べて、果たしてこれが全部国際空港としてどういふふうになるのか。その問題はもっと、日本国内としては考え直さないとはいけません。国際的に見ますと、ソウル、上海、香港、更にはシンガポールといふふうにお互いにハブ空港同士の調整といふのも当然必要になってくるのではないかと考えます。そういう形でお互いにこれから情報交換をする場合に、ある場合にはある都市が先生になり、ある場合にはある都市が生徒になりといふような形で、お互いに交流する場所、これは国対国では出来ない問題だと思ひます。都市対都市に下ろさないといふ出来ない問題だと思ひます。そういう意味で、今後この機会が、これが始まりとしてますます進んでいくことを考えなければいけないと思ひます。そこで、もう1つこの問題と絡んで言っておかなければならないのは、地方自治体はいかにあるべきかといふ問題だと思ひます。今のところ、日本の地方自治といふのは、アジアの諸国の中では比較的進んでおります。ただ、これもまだ中央との関係といふのはいろいろな緊張関係を持ちながら、少しずつ地方の権

限が拡張される方向に来ているわけですが、来年から韓国も民選市長になると聞いております。今、言ったような具体的な、市民の一人ひとりの生活の問題というのは、市の段階で解決しなければならない。中央の統制の中ではなかなか解決がつかない問題がある。その場合の財源とか、権限とかいうものの地方への委譲がどうしても欠かせないと思います。その受け皿づくりとして、これから考えなければいけない。特に首都の場合は、中央の施策と自治体の施策というのが常に混然一体としていて、ある意味では、懐も大きいし、良いところもありますが、逆に言えば、その中で解消してしまって、自治体プロパーの仕事が出来ないという面もあると思いますので、今後そういう形でのお互いの経験交流も必要なのではないかという気がいたします。

大体そういうことで、明日以降の討議が更に深まり、来年以降はこれが続くことが大事だと思いますので、そのことを期待申しまして私のコメントを終わりにいたします。（拍手）

桑原座長 林教授、どうもありがとうございました。各都市の発表の中では、各都市の歴史、特性を生かし、目標を持って追求を進めておられる事例を発表いただきまして、非常に勉強になりました。事例発表の中で、「国際化社会を迎え、国家の枠組みを超えて都市間の交流が大変重要だ」「都市間交流が盛んになることを期待する」「比較優位の関係ではなくて、パートナーシップの関係が大切である」「都市同士が良い意味で競争し、協力し合うことが大切である」「アジア太平洋地域の都市と交流の夜明けである」「ともに切磋琢磨し、お互いに学び合うべきだ、同じ地域内の友人の成功を学ぶことが出来る」と言うような、本サミットへのご意見をいただきまして、主催者として大変感謝にたえません。本日の全体会議の議論が、都市の発展と人間居住空間との調和を図る、本サミットの目的達成に大いに寄与することを確信いたしました。明日の3分科会での討議の基礎となり、論議が深まることを期待いたします。

以上で本日の会議を終了させていただきます。皆様のご協力を感謝いたします。どうもありがとうございました。（拍手）